

平成27年第4回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成27年11月27日
大仙市長 栗林次美

平成27年第4回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について報告申し上げます。

はじめに、会計検査院の現地検査による補助金等の返還について報告いたします。

この問題については、平成26年12月の会計検査院による現地検査の結果、「地域子育て支援拠点事業」の子育て等に関する相談支援等事業において、開設日数と時間等が国が定めた交付要件を満たしていないとの指摘がなされたことから、今次定例会に平成21年度と25年度の国・県への返還に係る予算の補正をお願いしております。なお、平成22年度から24年度と同補助金の事業についても、国・県の指示により対応することとしております。

今回の件については、助成金交付要綱等で定められた交付対象となる要件の認識の誤りによるものであり、今後の各種事業実施にあたっては、合規性等をしっかりと確認するよう職員に徹底してまいります。

次に、市街地再開発事業についてであります。

大曲通町地区第一種市街地再開発事業については、南街区建築工事の完了を受け、9月30日に再開発組合から同街区の建物取得者である市と大曲商工会議所に引き渡しが行われ、10月13日には、多数のご来賓にご臨席をいただき竣工式を執り行っております。

南街区には、市民の健康と福祉の拠点となる大仙市健康福祉会館、市街地の保育ニーズに対応する認定こども園、地域経済の活性化を担う大曲商工会議所事務所、大曲ヒカリオ駐車場が整備され、昨年5月にオープンした北街区と合わせ、中心市街地の新たな顔「大曲ヒカリオ」が完成いたしました。

また、11月3日には、大曲ヒカリオのグランドオープンを記念し、南街区広場を会場にオープニングセレモニーを開催したほか、各施設の一般見学、特設ステージでの舞台発表や特産品販売などのイベントを実施し、市民の皆様と事業の完成をお祝いしたところであります。

なお、当日は花火通り商店街において、「秋田ワインカーニバル&納豆サミット『カモースリング大曲』」が同時開催され、中心市街地が多くの人で賑わいました。

賑わったところであります。

事業着手以来、東日本大震災や豪雪等の影響により進捗の遅れが懸念されたこともありました。基本構想策定から約6年という短期間で、かつ市制施行から10周年という節目の年に、計画どおり事業を完了することができました。

今後は、本事業の目的の一つである中心市街地の賑わい創出を図るため、関係団体が連携し、大曲ヒカリオを中心に多くの来街者が訪れるように努めてまいります。

次に、雪対策について申し上げます。

昨年策定した「大仙市雪対策総合計画」に基づき、例年それぞれの団体で開催していた除雪出動式を統合し、本年から「大仙市除雪等合同出動式」として、11月6日に大曲市民会館小ホールで開催しております。出動式には、市と除雪ボランティア「大仙雪まる隊」、雪下ろし登録事業者、消融雪施設組合の方々、さらには本年度から共助事業として新たにスタートした「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」の実施団体の皆様など、総勢278人の出席の下、本格的な降雪期を前に市民、事業所、行政が一丸となってこの冬を乗り切るという決意を新たにしたところでもあります。

本年度の雪対策事業等の市民への周知については、市広報、FMはなびや報道機関等に加え、民生委員、自治会の代表者を対象とした説明会を市内13地区において延べ18回開催しており、新たに実施する2件の雪対策事業についても説明しております。この結果、自治会などの団体を対象に、地域の雪処理を支援する「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」には、11の団体から事業計画が申請され、このほど交付決定を行っております。

また、自力での除雪が困難な高齢者等の世帯を対象に、間口の除雪や屋根の雪下ろしに対し助成する「高齢者等雪対策総合支援事業」には、11月25日現在で729世帯からの利用申請があり、随時利用決定を行っているところがあります。申請の内訳については、間口除雪の申し込みが512世帯、雪下ろし事業者の割り当て希望が453世帯となっており、これに対応する雪下ろし登録事業者は108事業者となっております。

地域提案型自治会等雪対策モデル事業については、申請期間を12月末まで延期したほか、高齢者等雪対策総合支援事業は随時の受け付けとしており、今後の降雪により申請件数が増加するものと考えております。

道路除雪事業については、本年から5年間を計画期間とした「大仙市道路除雪基本計画」の策定作業を進めており、まもなく完了する予定であります。この計画では、「安全な道路空間の確保」を目標に、除雪業者の経営環境の安定化を図るため、共同企業体化や複数年契約を進めることで、本年度は、新たな共同企業体化を仙北地域で実施するほか、冬期における道路維持業務との包括発注については、既に共同企業体化が定着している太田地域で試行的に実施し、今後2年間をめどに全地域を対象に実施することとしております。

なお、本年4月に専任職員3人で発足した雪対策推進室については、12月1日から4人の兼務職員が加わり、今後の降雪期に備えるほか、相談窓口のワンストップ化により市民からの相談等に迅速かつ的確に対応する体制を整えてまいります。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

本年度の職員採用試験については、各職種合わせて102人の申し込みがあり、最終合格者は一般行政事務18人、保健師5人の合わせて23人としております。大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験については、各職種合わせて40人の申し込みがあり、最終合格者は、上級消防5人、初級消防11人、初級救急救命1人の計17人となっております。また、同組合の事務職員の採用試験については33人の申し込みがあり、最終合格者は3人となっております。

アーカイブズ事業については、本事業の啓発を図るため11月12日、13日の両日、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第41回全国大会が、会員約200人の参加のもと、本市の大曲市民会館等を会場に開催されております。また、大会においては市の企画として、初代公文書管理担当大臣で前法務大臣かみかわようこの上川陽子衆議院議員を講師に迎え記念講演を開催し、市内外から約500

人の参加をいただき、事業の重要性や必要性に対する認識が深められたものと考えております。

次に、企画部関係についてであります。

非核平和都市宣言事業については、10月1日、大曲中学校を会場に約450人の参加のもと、「平和祈念フォーラム」を開催しております。フォーラムでは、7月下旬に広島市へ非核平和レポーターとして派遣した高校生1人、中学生5人による学習報告を行ったほか、3回目となる平和標語コンクールの最優秀賞受賞者に対する表彰や、土崎港被爆市民会議事務局長の伊藤^{いとう}紀久夫^{きくお}さんと、土崎空襲の被爆者でもある奥様の津^つ紀子^{きこ}さんご夫婦による講演などを行っております。

男女共同参画の推進については、9月29日には大曲交流センターで男女共同参画防災セミナーを開催し、男女共同参画の視点に立った防災・減災に対する学びの機会としたところであります。また、11月15日には中仙市民会館「ドンパル」で、大仙市ドメスティック・バイオレンス防止連絡会との共催による人権啓発講演会を開催し、男女共同参画の基礎となる人権について考える機会としております。なお、この講演会では男女共同参画に関する「絵手紙コンクール」の表彰も行い、作品の紹介等を通して参加者の意識啓発を図ったところであります。

神奈川県座間市との交流については、10月31日の座間市民まつり前日祭で座間市、大仙市、福島県須賀川市の子どもたちによる伝統芸能披露が催され、本市からは清水小学校児童16人を派遣し「黒土神楽」^{くろつちかぐら}を披露したほか、両市の議員交流会などにより交流を深めてまいりました。

また、宮崎市との有縁交流については、老松副市長とさどわら会の会員をはじめ、一般公募の市民5人を含む計20人が宮崎市を訪問し、宮崎神宮大祭パレードで「大曲の花火」など本市のPRと交流を深めてきております。

国際交流については、10月5日から8日にかけて開催された韓国旅行エージェント商談会に合わせ、7日に久米副市長と関係者が友好交流都市である唐津市^{たんじんし}を訪問し、ジョン・ビョンヒ唐津市副市長との会談で、今後の友好協力関係を強化していくことを確認してまいりました。

また、10月17日には大仙市国際交流協会との共催による「第8回国際フェスティバルin大仙」をイオンモール大曲において開催しております。世界の民族衣装ファッションショーや伝統舞踊などの披露や、国際活動団体と各国を紹介するブースでの外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）による自国のPRなど、多くの市民が多文化に接する機会となりました。

次に、市民部関係についてであります。

公共施設再生可能エネルギー導入事業については、大曲、神岡及び中仙の3庁舎の太陽光発電・蓄電池システム導入工事を10月末までに完了しております。また、市内44カ所の避難所施設へのソーラーLED街灯導入工事についても10月末までに完了しております。これにより、平成24年度から進めてきた県の基金事業を活かした再生可能エネルギー導入事業は、全事業が完了となりました。

大仙市太陽光発電事業については、西仙北地域柏台の発電所建設工事が順調に進捗しており、12月14日には竣工式を行い、翌15日の受電開始を経て、12月25日から東北電力への売電を開始する予定であります。

廃棄物処理の広域化に関する検討については、昨年12月から仙北市、美郷町、大仙美郷環境事業組合及び大曲仙北広域市町村圏組合の担当者による検討委員会を設置して検討を進めてまいりましたが、このたび検討結果がまとまったことから、今次定例会の会期中に議会に報告をさせていただきたいと考えております。

市内7カ所の旧市町村設置の一般廃棄物最終処分場の廃止事業については、第3回定例会で閉鎖整備計画策定業務に係る補正予算の承認をいただき、公募型プロポーザル方式による業者の選定作業を進めてきており、12月1日には契約を締結する予定であります。

安全安心なまちづくりについては、防犯・防災、青少年健全育成、交通安全の各分野の関係団体のご協力をいただき、10月22日に太田地域において、これまでの安全安心まちづくり大会と交通安全推進集会を統合し、「大仙市安全安心推進集会」として開催しております。約400人の関係者が、太田学校給食センターから太田支所まで交通安全啓発パレードを行った後、太田文化プ

ラザに会場を移しての集会では、個人11人と1団体に対する功労表彰や東北公益文科大学の吉^{よしむらのぼる}村昇学長による講演などを行っております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

本年度の臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金については、子育て世帯臨時特例給付金は6月22日から、臨時福祉給付金は8月25日から受け付けを開始し、支給決定者には10月以降順次給付しております。11月24日支給分までの申請率は、臨時福祉給付金が83.0パーセント、子育て世帯臨時特例給付金が99.8パーセントとなっております。

敬老会については、9月1日の大曲地域大川西根地区、神岡地域及び南外地域を皮切りに15会場で開催し、4,454人の方々からご参加をいただき、各会場とも盛会裡に終了しております。

金婚式については、10月27日に、仙北ふれあい文化センターを会場に開催し、結婚50周年を迎えられた54組のご夫婦を祝福しております。

市街地再開発事業の完了に伴う、大仙市社会福祉協議会事務所移転後の施設利用については、市の業務委託を受けて地域活動支援センターを運営するNPO法人大曲ふれあい会に無償貸与することとし、11月7日に入居し業務を開始しております。この地域活動支援センターは、障がいのある方々に創作的活動、生活活動などの機会を提供し、地域社会との交流促進と地域生活支援などの促進を図ることを目的として設立されており、引き続きセンター機能や活動の充実が図られるよう支援してまいります。

秋田おばこ農業協同組合が四ツ屋地区に建築中の保育施設「おばここども園」については、平成28年4月の開設に向け準備が進められており、平成28年2月の施設完成後に、事業所内保育事業として開設されると伺っております。

神岡放課後児童クラブの建築工事については、現在、本体工事に入り計画どおり進捗しており、平成28年3月中旬の完成、4月からの供用開始を予定しております。

インフルエンザの予防接種については、65歳以上の方等を対象に季節性インフルエンザワクチンの予防接種を10月1日から実施しております。本年度

のワクチンは、3価から4価への抗原の増量に伴い値上げされたことから、予防接種経費の一部助成額を昨年度から100円増額し、1,300円とするにととしております。

大腸がん検診研究事業については、特定健診と併せて実施している集団健診のほか、日曜健診、市内企業及び市職員の職場検診においても参加者を募集しております。本年度の新たな参加者数は、11月1日現在666人で、参加者累計は、5,058人となっており、目標参加者数の6千人に対する参加率は84.3パーセントとなっております。今後は、11月29日と12月6日の日曜日に追加で実施する大腸がん検診においても参加をお願いすることとしております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作については、10月15日現在の全国の作況指数は「100」の平年並みで、秋田県及び県南は「103」のやや良と発表されているほか、JA秋田おぼこの取りまとめによる大仙市の一等米比率は、11月11日現在97.6パーセントと昨年同様高い水準となっております。また、米の出荷時にJAから農家に支払われる仮渡金については、転作率が強化された中で、大豆・飼料用米等の積極的な需給調整への取り組みにより、60キログラム当たり昨年より1,500円多い、1万円となっております。

大豆振興については、市内3地域に設置した各実証ほ場とも全て刈り取りを終え、技術指導をいただいている東北農業研究センターからの情報によると、収量が市の目標とする10アールあたり200キログラムに対して、300キログラムを超えるほ場もあると伺っております。また、本年度は転作作物として、大豆への期待感の高まりから当初見込みを上回る作付面積となっております。これに伴い国の産地交付金を活用した助成と市独自の大豆栽培モデル対策事業の補助金が、当初の計画どおりの交付額が難しいことから、今後の推進対策も踏まえて今次定例会に関係予算の補正をお願いしております。

園芸メガ団地整備事業については、経営主体である「農事組合法人下黒土^{しもくろつち}アグリ」、「農事組合法人上黒土^{かみくろつち}」により11月中旬にトマトの収穫を終えております。本年度は工事の中での栽培であったことに加え、7月下旬から

8月下旬にかけての日照不足の影響もあり、出荷量は計画の6割程度と伺っております。来春からの本格栽培に向け、市といたしましても関係機関と一層の連携を図りながら、支援してまいりたいと考えております。

また、JA秋田おぼこが四ツ屋地内に整備を進め、10月30日に完成した「枝豆等野菜・花き集出荷施設」の隣接地に建設中の「トマト選果・野菜集出荷施設」についても来年度から本格稼働することとなっております。

各地域の秋まつりイベントについては、10月24日、25日の両日、大曲体育館や市役所駐車場、大曲市民会館を主会場に、11回目となる「大仙市秋の稔りフェア」を開催しております。農産物や特産品の直売、商工展示、芸術文化活動の発表、大曲農業高校生による仮装行列パフォーマンスが行われたほか、恒例となった宮古市からの提供によるサンマ炭火焼き体験コーナーや、新たに気仙沼市職員有志によるサンマのすり身汁やホタテの炭火焼きコーナーなども設けられ、多彩な催しにより賑わいを見せた2日間でありました。天候不順の中、2日間で延べ2万8千人の方々にご来場をいただき、稔りの秋と文化に触れて楽しんでいただけたものと考えております。

また、各地域のイベントについては、10月4日に「美山湖フェスティバル」、10月17日・18日の両日に「かみおか地域文化祭」、「全国ジャンボうさぎフェスティバル」、「きょうわ祭」、「仙北公民館まつり」、「太田を元気にする秋まつり」、10月18日に「なんがい地域祭」、10月31日・11月1日の両日に「にしせんぼく文化祭」を開催しており、それぞれ盛会裡に終了しております。

多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金等の事業を実施している活動組織等による、第1回目の「秋田の原風景を守り継ぐフォーラム」が、11月24日に本市を会場に開催され、県内各地から多数の参加をいただいております。フォーラムでは、余目地域活性化対策いきいき協議会の活動や、大曲土地改良区管内の取り組みが評価され、大仙市大曲広域協定運営委員会が最優秀賞を受賞しております。

本年度8回目となる大仙農業元気賞については、10月20日に関係団体、議員各位、新規就農研修生など多数の方々の出席をいただき、本市農林業の若き担い手4名を表彰しております。

市が実施する鮭ふ化放流事業については、本年で120年目を迎えたことを記念し、11月12日に「大仙市鮭ふ化放流120年記念事業」を開催しております。式典では、長年、鮭の採捕や食文化の伝承、ふ化及び稚魚育成技術の確立などに貢献された団体、個人に対し感謝状を贈呈しております。また、東京海洋大学名誉博士の「さかなクン」を講師に記念講演を実施しており、小学生や市民など約1千人の参加により盛会裡に終了しております。

秋田市に本社を置く、太平物産株式会社が製造した肥料の成分偽装問題については、市内の生産者が栽培した特別栽培農産物及び有機農産物への影響について、JA秋田おぼこと有機JAS及び特別栽培農産物の公的認証機関である秋田県農業公社に確認した結果、現在のところ問題となる団体及び個人はいないとの報告を受けております。

また、農薬と化学肥料の使用量を通常のおよそ2分の1以下に抑えている農家に対して支援する環境保全型農業直接支払交付金については、市内の対象農家に確認した結果、同交付金への影響はないものと考えております。

10月10日に開催した「大曲の花火 秋の章」については、四季折々に「大曲の花火」を打ち上げる企画のうち「秋」にあたる催しで、花火産業構想の一環であるとともに、「あきた県民文化芸術祭2015」の事業としても開催されたところであります。1時間あまりの花火ショーでありましたが、注目度は高く、また好天にも恵まれ、昨年の国民文化祭時より多い約3万5千人の方々から観覧をいただき、「大曲の花火」ブランドを活用した地域活性化に結び付く催しであったと思っております。

3回目となる「大仙市ふるさと物産フェア2015 in有楽町」については、10月16日と17日の2日間、東京のJR有楽町駅前広場を会場に開催したところであります。このイベントは、本市を首都圏でPRするため、市観光物産協会が中心となり、特産品の販売やご当地グルメの提供を行ったもので、各ふるさと会会員の皆様をはじめ、一般のお客様にも多数来場をいただき大好評のうちに終了しております。

市観光物産協会が実施する第3回「大仙市特産品開発コンクール」については、市内の企業、組合、各種団体等から7点の応募があり、入賞2作品を市の特産品として認定したところであります。入賞作品は、県内外で開催するイベ

ント等で広くPRに努めるほか、ふるさと納税の寄附をいただいた方への返礼品としても活用するなど、販路拡大のための活動支援等を行うこととしております。

本年度で3回目を迎えた「大曲エキまつり」については、本年は奥羽本線全線開通110周年を記念したイベントとして、10月10日にJR大曲駅と市の共催事業として実施しております。このイベントでは、鉄道に関する展示や車両見学と体験試乗、郷土芸能やよさこいなどのステージイベントなど盛りだくさんの内容で行われ、延べ9,500人の方々に楽しんでいただいております。

昨年度からの継続事業である奥羽山荘の源泉開発工事については、8月に秋田県環境審議会温泉部会から動力装置設置許可を受け揚湯設備工事に着手しており、12月1日には供給開始となる予定であります。今後は、湧出量の確保により、営業の安定化と利用客の増加につながるものと考えております。

花火産業構想の推進については、花火を支える人材育成のため連携協定を締結している足利工業大学の^{てい}丁教授をお迎えし、8月31日から9月4日までの5日間、火薬類取扱保安責任者資格取得講座を開催し、受講した16人のうち12人が合格しております。

また、「大曲の花火」ブランドを生かした「大曲の花火ダリア」の開発については、9月10日に品種選定の一次選考会、9月28日に東京都の大田花き市場関係者に対し需要調査を実施し、その結果を踏まえ最終選考により「大曲の花火ダリア」4点を決定しております。

なお、本市において開催することが正式に決定した第16回「国際花火シンポジウム」については、「大曲の花火と日本の花火」の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、早急に実施体制を整える必要があることから、11月16日に大曲商工会議所内に市からの派遣職員3人を含む5人体制の実行委員会事務所を開設し、今後、市、大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市観光物産協会の4者による実行委員会を11月30日に発足することとしております。

全国花火競技大会実行委員会の主催により実施している花火師との懇談会については、11月18日に都内で全国の花火師と意見交換を行ったほか、新たに「大曲の花火の集い」を開催しております。集いには関係省庁や関係団体の

代表者、全国花火競技大会審査員、全国の花火師、日本花火鑑賞士会など42人が出席し、105年の歴史を持つ「大曲の花火」の発展に向けた取り組みの報告と、大仙市花火産業構想や国際花火シンポジウム等について報告を行っております。

物産中仙株式会社の経営状況については、平成25年12月に東雲堂^{しのめどう}の自社工場閉鎖に伴い米菓部門の売上げが低迷し、期末の資金繰りの悪化が想定されたことから、3千万円の追加増資の承認をいただき米菓部門を継続してきたところであります。その後、売上げが落ち込んでいた米菓部門は、今期に入りJR東日本のプライベートブランド商品の受注と数社との新規契約の締結により、第1四半期には売上げの増加を見たところであります。

しかしながら、米菓工場の機械設備の経年劣化により、機械の不具合の発生や製造過程の錆や塗装の剥離などによる異物混入の不安が増大しており、これに対応するための機械更新には、長期間の操業停止と多額の経費が予測される場所があります。さらに、受注量の増加に対応する社員体制については、増資の際に2人の人員整理を行ったことに加え、本年8月には製造の主要社員が退職したことにより、増産体制が困難となっていることから、おかきの製造を続けることは厳しいと判断し、11月末をもって工場の操業を停止することといたしました。今後は、本店部門と売店部門での営業となりますが、販売強化と経費の削減により運営できるとのシミュレーションも示されており、業績の改善に努めてまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

本年で11回目となる大仙市技能功労者表彰については、10月14日に推薦団体や議員各位をはじめ多数の方々に出席をいただき、ものづくりに対して優れた技能を持ち本市産業の発展に尽力された左官業、電気工事業、建築大工業、基礎工事業の4分野から5人の方々を技能功労者として表彰しております。

来年3月高校卒業予定者の就職状況については、ハローワーク大曲の10月末現在の集計によりますと、求人数は441人となっております。就職希望者は363人で昨年同期に比べて10.7ポイント増加しています。このうち内定者は302人でうち県内内定者数が221人と昨年同期との比較で15.1ポイント増加しております。

未就職若年者への支援については、早期就職支援と地元定着を目的とした若者就職応援講座を8月29日から5回開講し、4人の方が受講しております。

企業対策については、青森県に本社を置く縫製業「オリジナルテクノロジー株式会社」が、7月24日に廃業した西仙北地域土川の「東京クロージング」の空き工場を取得し、9月1日から操業しております。同社は東京クロージングの元社員40人を雇用し、近年国内で需要が拡大しているオーダーズーツを生産しており、県の誘致企業認定を受けております。なお、本年度の本市における県の誘致企業認定は、アゼアス株式会社に続き2件目となっております。

8回目となる「大仙市首都圏企業懇話会」については、11月17日に本市出身の企業関係者や進出済み企業の本社などから新規7人を含め36人、そのほか、ふるさと会、市内商工団体、市議会議員など総勢75人により開催しております。懇話会では、平成10年以来、本市でサマーキャンプを実施している、横浜商科大学硬式野球部の^{ささきまさお}佐々木正雄監督を講師に迎え、「人と道『野球道』」と題した講演をいただいております。

次に、建設部関係についてであります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業については、大花地区で進めていた区画道路新設工事、街区整地工事が10月下旬に完了しており、これにより大花地区事業地内の道路整備は全て完了しております。また、まるこ川通線新設工事、街区公園3カ所の整備工事は10月上旬に発注済みであり、本年度内に完了する予定であります。

社会資本整備総合交付金を活用した道路整備事業については、通学路歩道整備事業として進めている太田地域の市道久保^{くぼせきふるだて}関古館線は、1.2キロメートルについて盛土工事が完了し、仙北地域の仙北1号線の歩道新設工事についても12月上旬に工事が完了する予定であります。また、幹線道路の路肩改修事業として整備を進めている神岡地域の坊ヶ沢戸月線は、測量設計業務が完了しており、線形改良事業として整備を進めている仙北地域の仙北21号線の測量設計業務は、12月上旬に完了する予定であります。

市単独事業である各地域58カ所の道路維持工事及び道路改良工事については、48カ所が完了し、残り10カ所も全て発注済みであります。

道路情報管理システム整備については、統合型GIS基本計画及び道路台帳統合基本計画に基づき、市全域の道路台帳を統合及び電子化するための業務を発注し、来年度のシステム運用に向けて作業を進めております。

橋梁の長寿命化対策については、社会資本整備総合交付金を活用した橋梁長寿命化修繕事業として、大曲地域は「丸子橋」、中仙地域は「坂の上橋」の橋梁補修工事を発注しており、12月中旬には完了する予定であります。

住宅リフォーム支援事業については、11月5日現在の実績が申請件数428件、補助金額で6,705万円、対象工事費で9億3,416万円となっており、このうち、克雪対策工事については申請件数92件、補助金額1,395万円を対象工事費は1億1,196万円となっております。環境対策工事の増加と昨年度の実績を踏まえ、今後の克雪対策の申請に対処するため、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

西仙北地域の天神前市営住宅建替事業については、本年度施工分の構内道路の舗装工事が終了し、まもなく完了の予定であります。発注済みの住宅3棟8戸の建築工事は、現在、基礎工事が完了し12月上旬から木工事に着手する予定であります。

水害対策事業については、秋田県が事業実施している福部内川河川改修事業に関連し、支川内水処理のため新設する排水機場のうち、最下流部の福見町排水機場設置工事を発注を終えております。

市道の災害復旧事業については、10月に国の災害査定を受けて、中仙地域の中仙18号線1カ所、太田地域の真木線4カ所、横沢バチ沢線1カ所の計6カ所について、国から4,800万円の事業費の承認を受け、災害復旧事業を実施する予定であります。

次に、国、県関係事業についてであります。

国の雄物川中流部の河川改修事業については、南外地域の西板戸地区、協和地域なかむらあしざわの中村芦沢地区、西仙北地域の強首及び寺館大巻地区において、築堤等の工事が発注済みであると伺っております。なお、無堤地区である協和地域の岩瀬・湯野沢地区については、現在、基礎調査として現地測量業務を実施しております。

県の大曲福見町地内の福部内川改修事業については、排水樋管の設置及び護岸工事が発注済みであり、本年度内に完了すると伺っております。

主要地方道角館六郷線については、中仙地域と太田地域を結ぶ「斉内川橋」の橋梁工事が完了し、11月に全線開通しております。

主要地方道神岡南外東由利線の南外地域下^{しもぶくろ}袋バイパスについては、現在、舗装工事が実施されており、国道105号から南側の区間900メートルが本日11月27日午後^{とのやしき}に開通すると伺っております。また、一般県道水沢西仙北線で整備が進められていた殿屋敷工区については、9月に全線開通しております。

なお、7月25日に発生した水害による県管理河川の災害復旧については、10月に国の災害査定を受けて、中仙地域の斉内川5カ所、小滝川2カ所、協和地域の淀川1カ所、西仙北地域の心像川2カ所、仙北地域の川口川1カ所の合計11カ所について、国から14億5,400万円の事業費の承認を受け、災害復旧事業を実施する予定と伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業については、内小友地内の配水管布設工事は10月下旬までに完了しております。また、大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事は、10月下旬までに完了しており、これにより土地区画整理事業に伴う上水道工事は全て完了したことになります。

簡易水道事業については、第3回臨時会で補正予算の承認をいただいた協和南部地区配水管布設替工事が、10月1日に契約を終えております。

西仙北地域大沢郷地区及び半道寺地区の浄水施設改修工事は10月下旬までに、仙北中央地区の配水管布設工事は11月下旬に契約を終えております。

また、第3回定例会で補正予算の承認をいただいた協和南部地区の更新計画策定業務委託については、11月20日に契約を終えております。

下水道事業については、本年度計画した委託業務は5件中4件、工事関係は14件全ての発注をしており、管路工事13件は12月中旬に完了の予定であります。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校施設整備の天井等落下防止対策事業については、対象となる小・中学校30校のうち12校が完了しており、残りの18校についても既に発注済みであり、本年度内の完了を目指して工事が進められております。

防災教育については、3年目の事業として展開している「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」の中核をなす避難所開設に関わる訓練を、8月29日、西仙北中学校を会場に実施しております。西仙北地域住民のご協力をいただき、警察、消防等関係機関との連携により、中学生サミットのメンバーなども含め約400人が参加し、避難所を開設した中学生からの西仙北支所及び地域の自主防災組織に対する避難所運営の引き継ぎが行われたほか、西部わくわくランチが備える防災機能を生かし非常食を提供するなど、より実践的な訓練を実施しております。

さらに、この取り組みをモデルとして、9月17日、18日には平和中学校が、10月29日には大曲中学校が地域住民や関係機関と連携して、シェイクアウトや避難所開設に関わる訓練を実施しております。

また、本事業では、被災地との交流活動を支援しており、これまでに、5中学校が、連携している小学校や地域の方々とともに、それぞれ継続して交流している被災地と複数回の交流活動を実施しているほか、小学校単独でも自ら育てた米を届けたり、現地に赴いて花を植えたりする活動が行われており、今後ますます交流と学びが深まることを期待しております。

子どもたちの夢の実現意欲を育む、こころのプロジェクト「夢の教室」については、本年度最後となる小学校の教室を10月5日、6日の両日、5校の5年生を主体に、チェリストの羽川真介はがわしんすけ氏を講師に迎えて実施しております。同じく中学校の教室を10月21日、22日の両日、5校の全校生徒を対象にピアニスト佐藤卓史さとうたかし氏を講師に迎えて実施しております。

小・中学校の部活動等については、9月20日に行われた全県駅伝大会で太田中学校が見事優勝を成し遂げ、12月12日に山口県で行われる全国大会への出場が決定しております。また、花館小学校、大曲中学校のマーチングバンドが11月7日に行われた東北大会を勝ち抜き、12月19日に埼玉スーパーアリーナで行われる全国大会に出場いたします。大曲中学校は全国大会6連覇

がかかるなど、その活躍が期待されております。

学習指導の充実のための取り組みについては、国、県及び市の研究指定事業を受けて各学校が公開研究会を開催し、県内外からの参加者を得て取り組みの成果を発表するなど、教員の研修の充実を図っております。

11月19日には、大曲小学校が、「拠点校・協力校英語授業改善プログラム事業」として、東大曲小学校が、国際教養大学との共同研究として公開授業研究会及び小学校外国語活動教員研修会を実施しております。また、豊成中学校区の研究として、豊岡小学校、豊成中学校が「小・中連携実践研究モデル事業」の成果を、大曲南地区の研究として、大曲南中学校が環境教育の継続研究の成果をそれぞれ公開しております。

11月20日には、大曲中学校が「教育課程研究指定校事業（国語）」と「拠点校・協力校英語授業改善プログラム事業」の成果を、11月24日には、中仙中学校が「教育課程研究指定校事業（理科）」の成果をそれぞれ公開しております。

生涯学習の推進については、昨年実施した第29回国民文化祭継承事業として、初夏に実施した写真関係事業に引き続き、9月17日から23日まで「子どもフォトコンテスト」応募作品展示、10月4日には「子ども囲碁大会」と「親子囲碁教室」、10月25日には国指定名勝旧池田氏庭園を会場として「秋の園遊会」を地域の芸術文化団体のご協力により、開催しております。開催にあたっては、写真、囲碁、園遊会を合わせて1,506人に参加・鑑賞をいただいております。

国民文化祭継承事業以外については、10月17日には市民短歌大会を開催し、中学生から57首、一般から76首、合わせて133首が寄せられております。また、11月19日には市民俳句大会を開催し、中学生から156句、一般から170句、合わせて326の投句をいただいております。

西仙北地域で開催された東北将棋大会については、11月5日から8日までの学生大会に東北の8大学から47人、11月8日の市長杯争奪戦の各部門に県内外から102人が参加し、それぞれ熱戦が繰り広げられたところであります。

芸術文化関係については、10月3・4日、10月10・11日に大曲市民

会館を会場に「大仙市芸術祭」が開催され、市内の芸術文化協会の会員同士が交流を図ったほか、延べ2,672人の市民の方々に鑑賞をいただいております。

総合図書館事業については、本年度「第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画」を策定したところであり、その中で11月第1木曜日を新たに「だいせん読書の日」と定め、11月5日の読書の日には、学校においては「大仙っ子読書の日」事業を引き続き実施するとともに、図書館においても市民が気軽に利用できるよう「来ぶらりフェス^{らい}」を開催するなど様々な関連した事業を実施し、市民の読書活動の推進を図っております。

総合市民会館事業については、10月17日、大仙市誕生10周年記念事業として日本屈指のサクソ四重奏団「トルヴェール・クワルテットコンサート」を大曲市民会館で開催、11月8日には、ふれあい文化センター開館20周年記念事業として、例年実施している民俗芸能フェスティバルに富山県を代表する「おわら風の盆」をお迎えして開催し、多くの市民の方々から鑑賞をいただいております。

文化財保護については、昨年度から2カ年継続で実施している払田柵跡復元外柵塀の建替工事が9月に完了しております。

また、市内の建造物の記録保存等のため実施している近代建造物の悉皆調査については、文化庁による現地確認をいただき、国の重要文化財または登録文化財の候補となりうる建物の所在を把握することができ、今後の具体的な取り組みにつながるものと考えております。

旧池田氏庭園については、本年度から一般公開の期間を広げ、また公開に関する運営の一部を池田家顕彰会に委託して実施しております。公開は概ね順調に推移しましたが、毎週末の天候不順などの影響もあり、本家庭園の来園者は国民文化祭のあった昨年度の約7割にあたる1万5千人となっております。

また、11月7日、8日には、3回目となる払田分家庭園イルミネーションライトアップ事業「晩秋のファンタジーナイト」を実施しており、多くの方々から分家庭園の幻想的な晩秋の景色を堪能いただいております。

スポーツ振興については、9月6日、大曲体育館を会場にプレシーズンゲームとなる秋田ノーザンハピネッツの試合が開催され、市内外のバスケットボー

ルファンなど1, 532人を魅了しております。

また、第37回目を迎えた全県500歳野球大会が、9月19日から23日までの5日間、神岡野球場を主会場に市内18会場で開催され、全県各地から過去最多となる184チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。本大会では、2年後の全国大会に向け、神奈川県座間市と地元選抜チームによるエキシビジョンマッチが行われ、大会に華を添えたほか、徳島県阿南市、徳島新聞社、全日本軟式野球連盟、ミズノ株式会社などが視察に訪れるなど、全国に向けた情報発信と機運の醸成に努めたところであります。

10月24日には、神岡地域に工場を持つ「株式会社セーコン」の橋渡しにより、本年も中学生野球教室を神岡嶽ドームで開催し、元プロ野球選手で監督を務めた近藤昭仁さん、八木沢荘六さんと、元プロ野球選手片平晋作さんの3名から、市内5中学校の野球部員と指導者107人が、各場面に応じた的確な練習方法などの指導を受けております。

市内の各スキー場については、12月19日を皮切りに順次オープンする予定としており、本年度も児童生徒が雪国のスポーツを通して体力づくりが行えるよう、市内の小学生、中学1・2年生及び特別支援学校の児童生徒を対象に、無料のリフトシーズン券を配布することとしております。

最後に、平成28年度当初予算編成について申し上げます。

来年度は、次期総合計画及び地方版総合戦略に掲げる施策の実現に向けて、今後10年間の新たなまちづくりのスタートとなることから、中長期的な視点に立ち、少子高齢化・人口減少社会への対応や市民生活に直結する事業の継続的な展開を図っていくことを念頭に予算編成に取り組んでまいります。

主な事業として、公文書館整備事業や広域消防本部改築事業などが予定されておりますが、大曲通町地区市街地再開発事業や学校施設天井等落下防止対策事業などの大型事業の終了により、一般会計の当初予算総額は、本年度をやや下回る440億円程度になるものと見込んでおります。

一方、普通交付税は合併特例措置の段階的な縮減の2年目を迎えることから、これまで以上に一般財源が不足する懸念があり、さらなる行財政改革が必要になるものと考えております。

また、花火産業構想の取り組みの一つである（仮称）花火伝統文化継承資料館等の整備事業や国際花火シンポジウム開催準備に係る経費など、地域産業の振興にも取り組んでいくことから、より一層の事業の「選択と集中」を図り、限られた財源を有効に活用し、市民ニーズや社会情勢の変化に対応した予算を構築するよう努めてまいります。

なお、予算編成のポイントとして、「次期総合計画及び総合戦略に沿った事業の構築」、「歳出規模の抑制と持続可能な財政基盤の確立」、「新たなまちづくりの推進に向けた施策展開」の3項目を定め、これに基づく予算編成作業に取り組んでまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況を報告いたしました。今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。市政報告とさせていただきます。